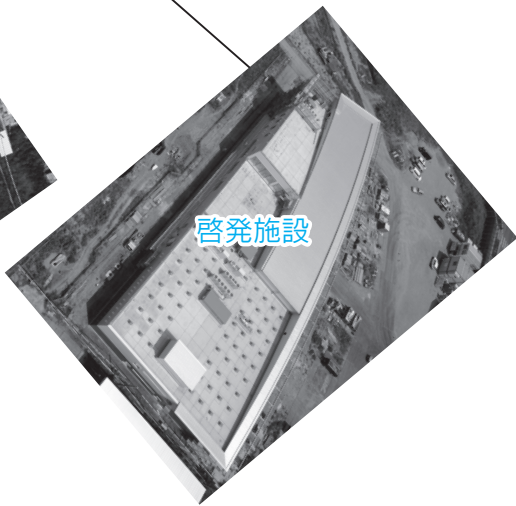
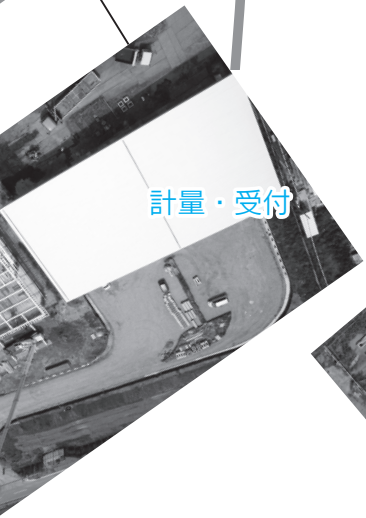
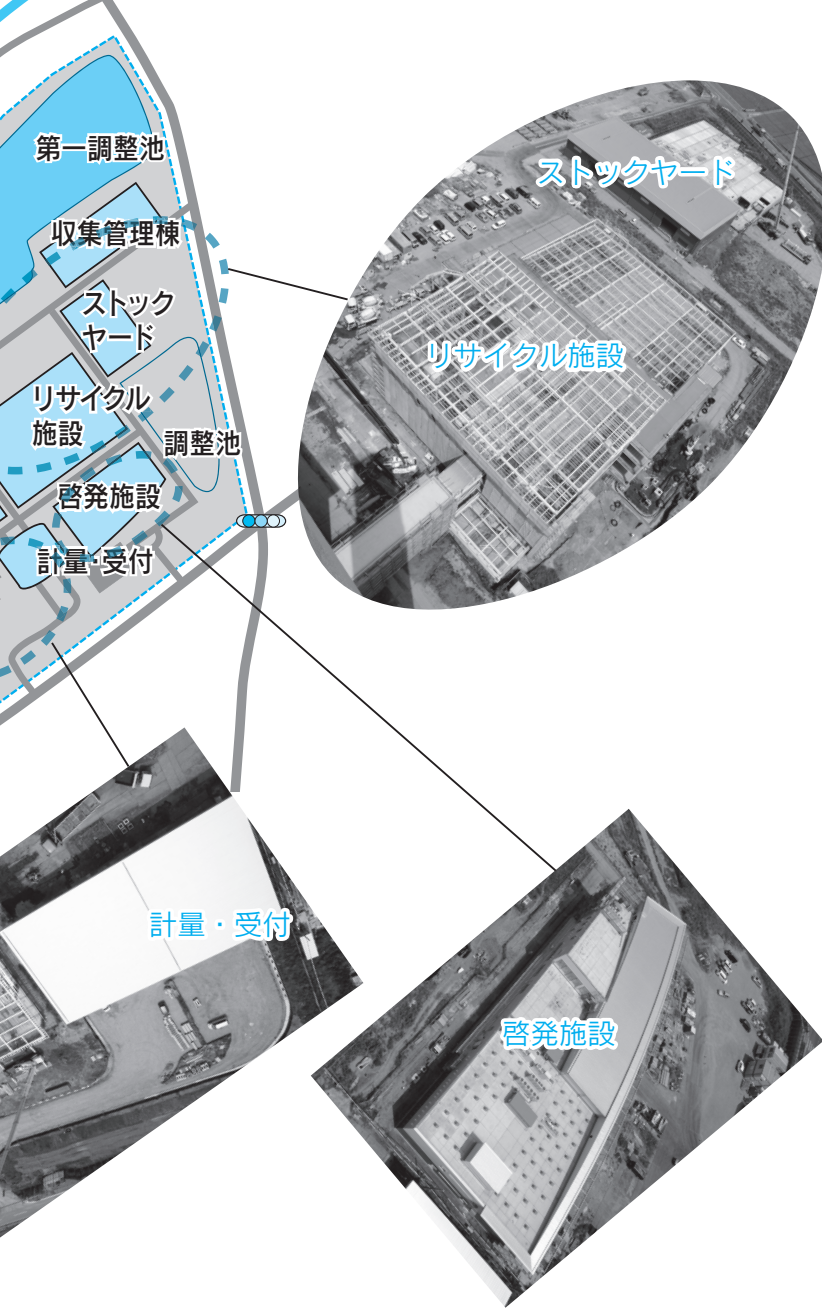


ゴミから資源

新清掃センターの名称は、「資源化センター」

来年四月に本稼動を予定している(仮称)新清掃センター。新たな名称は「資源化センター」に決まりました。これは、同センターに設置する主な施設すべてに「資源化」というキーワードが含まれていることから、市民の皆さんに分かりやすく、他の施設と混同しない「資源化センター」という名称に決まりました。

この記事では、同センターの現在の状況や、今後の予定などについてお知らせします。
 問い合わせ：新清掃センター建設事務所・TEL234-0530



資源化センターの外観

複数の建物からなる資源化センターは、全体として統一感のある施設となるように工夫しています。およそ十・五ヘクタール(東京ドーム約二個分)の敷地に「のびやかでダイナミックな造形と、田園を駆け抜ける風や、小畔川の流れを思わせる、流れのある建物」をイメージし、景観設計を行いました。

四角い煙突は、一辺が地上付近七メートル、頂上付近六メートルあり、高さは約九十メートル。市内で最も高い構造物です。炉が二つあるため、内部には二本の管があります。頂上部に斜めの線と空の色に合わせた色彩を施すことで、視覚的に煙突の高さと幅を抑え、すっきりと見えるようにしています。

資源化センターの主な施設と進捗状況

熱回収施設：可燃物を熱処理して、熱・電気・溶融スラグに資源化する施設。本体建築工事は、お済み完了。現在、機械の設置・確認作業を実施し



教えて！ 資源化センター

Q 溶融スラグってなんですか？

熱回収施設では、ごみを500℃程度で熱処理し、残った炭状のものを約1,200℃の高温で溶かします。そこで出来るガラス状の物質が溶融スラグです。この溶融スラグは、土木・建設資材として有効に活用する予定です。

Q ごみを燃やすだけの施設ではないの？

熱回収施設は、単にごみを燃やすだけでなく、熱処理した際のエネルギーを回収し、発電や給湯に活用します。ごみを資源化する「資源化センター」の中心となる施設です。

Q 景観に配慮しているの？

敷地の25%以上を緑地にして、周辺道路から緑が多く見えるよう工夫しています。

Q 雨水対策はどうなっているの？

施設全体で約47,400㎡の雨水調整能力があります。これは小学校のプールで約210杯分の量です。また、リサイクル施設や啓発施設では、雨水をトイレに活用します。

Q ごみ収集車で道路が混雑しないの？

同センターの入り口から重さを量る計量機まで約120mの搬入路と、敷地内に車の待避所を確保しました。これにより、一度に多くの車両が来場しても、周辺道路が混雑しないようにしています。

Q 太陽光発電はしないの？

同センターには、市内最大となる合計約165kWの太陽光発電設備を備えます。一般家庭の場合、およそ46世帯分の電力をまかなうことができる規模です。

Q なぐわし公園はどうなっているの？

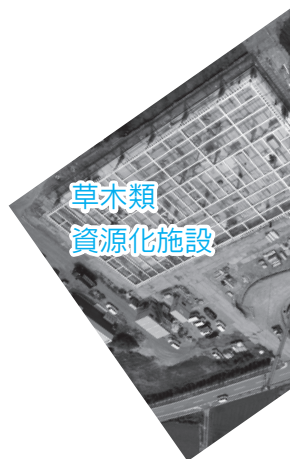
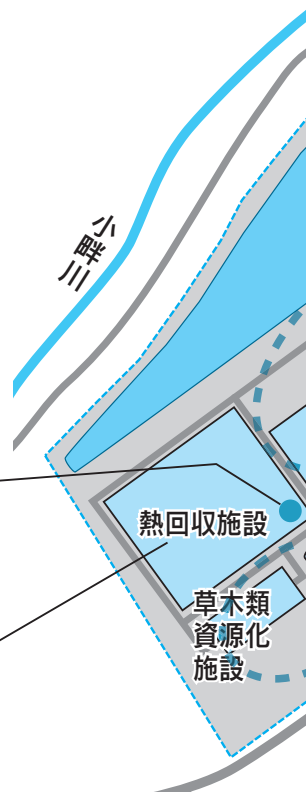
現在、熱回収施設の余熱を利用して運営する温水利用型健康運動施設を含めた第一期事業区域を、民間の資金や経営能力などを活用する手法で整備するための手続きを進めています。平成22年度には民間事業者を選定し、同24年度中の完成を目指しています。なぐわし公園については、公園整備課・TEL224-5965にお尋ねください。



煙突の外観（左）と内部（右）



熱回収施設



草木類
資源化施設

資源化センター 現在の状況 (8月20日撮影)

啓発施設：3R(リデュース⇨発生抑制、リユース⇨再使用、リサイクル⇨資源化)を普及・啓発するための施設。建築工事はおおむね完了し、内装工事などを進めています。今後、太陽光発電設備の設置も実施していきます。

草木類資源化施設：刈り草、植木せん定枝などを木質チップや土壌改良材として資源化する施設。基礎と鉄骨の組み立てが完了しました。今後、プラント機械の搬入などを進めていきます。

リサイクル施設：びん・かん・その他プラスチック製容器包装・不燃ごみ・粗大ごみを資源化する施設。現在、鉄骨の組み立てを進めています。来年1月から、プラント機械の性能試験を開始する予定です。

啓発施設：11月から、実際のごみを投入した性能試験(試運転)を開始する予定です。

